



→ 銀杏の枝先が膨らんできています。



祝卒業いまだ始まる新しい今

三月五日、六年生の八名が常磐東小同窓会に入会し、会員数は五十二名となった。三月六日は、五年生が中心となって企画した「六年生を送る会」が行われた。各学年からの手作りプレゼントや演奏、六年生を楽しませる思い出クイズやゲーム、そして六年間のスライド写真に、会場は温かな空気に包まれた。

六年生は、私にとっては出会ったときから最高学年の顔であった。ところが、送る会のスライドには、低学年時のあどけない顔。ぶっくりした頬、カメラに向けた力いっぱいの変顔やポーズ、心の動きをはっきり映す見開いた瞳。一年生を担任した伊藤聡子先生から寄せられたメッセージには、パワフルでダイナミックな子供たちの勢いで、泥んこ遊びが想定以上に盛り上がった思い出が綴られていた。二年生の福田しのぶ先生からのメッセージには、蔵次のどぶろく作りを見た町探検の思い出が綴られていた。活動好き、お手伝い好き、やりたがりでも何にでも興味を示す子供たちとは、何をしても盛り上がったことだろう。お二人の先生は常磐東小を離

れても、「これから楽しいこと、うれしいことがたくさんありますように」「行動力と仲間を大切にできる心を持ち続けて」と、子供たちの幸せと成長を願い、応援してくれている。また、卒業式の練習中に、旧担任をはじめ、多くの先生からのメッセージがあったように、常磐東小のどの教職員もが、卒業生の幸せを願っている。

私事だが、先日、常磐東小の同窓会員に自分の小学校五年生時の恩師、大山紘司先生のお名前を見つけた。さらに、大山先生が常磐東小で新任教師としてお勤めされていたことを知り、胸が高鳴った。私が教師になりたいと考えはじめたのは中学三年の卒業期であったが、その根底には大山先生との小学校での温かな思い出がたくさんあったからだ。いつも学級の誰かの良さを見つけてほめてくださった先生。名前を「さん」付けて呼んでもらい、照れ臭くもうれしかった。家庭訪問では、わくわくしながら玄関に花を飾って待っていた記憶がある。写生会では、木の葉が様々な緑色をしていることに気付かせてくれた。授業中は、足裏を床に付ける姿勢を根気強くご指導いただいた。山の学習では、「少年自然の家」まで徒歩で出掛け、道中に食べたおにぎりが格別においしかった。

卒業や進級を前に、東っ子にも先生や友達との楽しい思い出が一つでも多く残っていることを願う。幸せな思い出や出会った人に感謝する気持ちは、やがて次の行動を起こすエネルギーに変わるだろう。

常磐東小を巣立つ、茜音さん、木の葉さん、奏太さん、潤奈さん、千陽さん、來輝さん、響斗さん、ひなたさん。卒業後も、新たな世界で、新たに会おう人との出会いを大切に、充実した「新しい今」を重ねていてください。幸せな人生を歩まれることを心より願っています。

